

すくすく

文責 秋森

国語科校内公開授業

第2学年「サツマイモのそだて方」(東京書籍2年上) 6月29日(月)

6月29日、2年 A 組の公開授業が行われました。授業者は安田琴美先生です。「サツマイモのそだて方」という説明文は、サツマイモの育て方について説明した二つの文章で構成されており、二つの文章に書かれている内容を読み取るとともに、二つの文章を比べて読み、説明の仕方の違いに気づくことをねらいとしています。本時は6/12時間目、二つの文章を比べて違うところを見つける授業でした。今回の授業は7月1日に行われた2年 B 組の事前授業ということで、事後の協議では参観・協議の視点に沿って修正箇所を中心に話し合われました。

事後協議

参観・協議の視点

目的意識を持ち、主体的に二つの文章を読み比べ説明の違いを見つけようとしていたか。

授業者より

- ・二つの文章を読み比べ、違いについて意見が出なかった時は、前時までにそれぞれの文章に何が書かれているかを表にまとめているので、その表に戻って確認することができた。
- ・「一つ目の文章は～二つ目の文章は～」と比べて書くという書き方が難しかった。文型があったほうが良かったかもしれない。

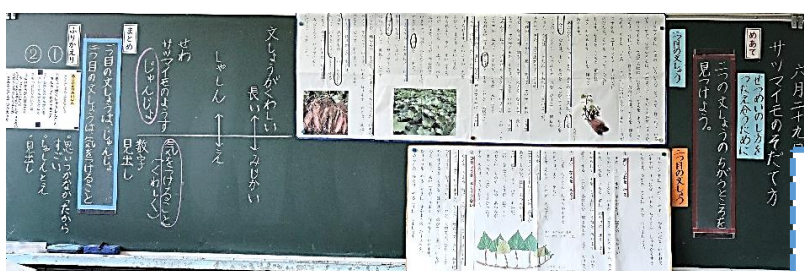
参観者より

- ・学習規律が徹底されていて参考になるところがたくさんあった。
- ・主体的に二つの文章に戻りながら読み比べができていた。
- ・本単元は初めて「比べ読み」が出てきて、比べ読みの仕方を教えるところである。教科書をめくりながら、二つの文章を読み比べる児童の姿が見られた。
- ・「一つ目の文章は～二つ目の文章は～」と、ノートになかなか書けない児童もいた。文型があれば良かった。→文型を示す。
- ・ペアで友だちと考えを伝え合った後、なるほどと思った友だちの考えは、自分のノートに付け足しを書いていた。青色で書かせることで、足跡として残る。「ここはちがう。」と言いながら直している児童の姿も見られた。
- ・教室内に学習の足跡として「学びの学習貯金」の掲示があり、今まで学んできたことをふり返ることができる。学びに向かうことのできる環境づくりができています。
- ・前時の学習をふり返ったり、次時の学習に見通しを持たせたりする時に、必ず単元構想図に戻り、子どもたちと一緒に確認することができていた。
- ・本時は何をするのが明確で、子どもたちもすぐに書いたり、対話したりと活動に取り組むことができています。またそれぞれの活動の時間配分も事前にしっかり検討されており、十分な時間があった。
- ・前時までに学習したことを、ノートをふり返らせて確認させる先生の声かけがあった。
- ・おさえたいまとめが出にくかったが、先生が「説明の仕方について伝え合うために」というめあてに戻らせて、全体で確認することができた。



ペアで考えを伝え合います。ノートを見せながら、伝え合うことができています。

単元を通してどのような資質・能力の育成を目指すのか明確にすることで、子どもたち意識して学びに向かう姿が見られた今回の公開授業でした。協議の後、出された意見を基にどう修正していくか学年団の先生方で話し合いました。そして、次の日に B 組の池田先生が模擬授業を行い、より充実した授業づくりに向けて検討を重ねることができました。2年 B 組の公開授業については次号でお伝えしたいと思います。



「学びの学習貯金」国語の単元で学習した「言葉の力」をまとめ、掲示しています。必要な時はふり返って確認することができます。

「読み比べ・表現の工夫」の系統

- 2年「サツマイモのそだて方」・・・説明の違いを読み取る
 - 3年「『ほけんだより』を読みくらべよう」・・・書き手の工夫を読み取る
 - 4年「広告を読みくらべよう」・・・表し方の違いを読み取る
 - 5年「新聞記事を読み比べよう」・・・記事の書き手の意図を読む
 - 6年「インターネットの投稿を読み比べよう」・・・説得の工夫を読み取る
- (1年生は「どうやってみをまもるのかな」で事柄の順序に気をつけて、だじな語や文を考えながら読む)

学年の系統性を意識して、単元で育成したい資質・能力を確認しておきましょう。

第4学年「広告を読みくらべよう」(東京書籍4年上) 7月2日(木)

7月2日には4年 A 組の公開授業が行われました。授業者は池本晃翔先生です。「広告を読みくらべよう」という説明文は、同じ体温計の広告でも「家族の健康のために誰にでも使いやすい」ことをアピールしたものと、「子どもの急な発熱時にすぐに使える」ことをアピールしたものの 2 種類が掲示されており、読み比べる中で「写真・キャッチコピー・説明の文章・説明の順序・色の効果」において表現の違いがあることに気づきやすいものとなっています。本時は4/7時間目、広告の目的を意識して二つの広告を比較し、必要な語句を見付け、広告にどんな表現の工夫が使われているのか考える授業でした。今回の授業は7月6日に行われた4年 A 組の事前授業ということで、事後の協議では参観・協議の視点に沿って修正箇所を中心に話し合われました。

事後協議

参観・協議の視点

作り手の目的を意識して、2つの広告を比較し表現の工夫とその意図を見つけることができていたか。

授業者より

- ・個人で考える時に、説明の文章・説明の順序・色の効果を二つの広告から見つけ、ワークシートにまとめて書くということが時間が足りず難しかった。ワークシートは家庭学習で取り組ませておくと良かった。
- ・個人思考で考えたことを全体で共有する中で、うまく意見を拾って広げることができなかった。

参観者より

- ・子どもたちは落ち着いて取り組むことができていた。
- ・単元構想図は本時までに終わっている部分は印をつけるなどして、本時はこんな学習をする、次時はこんな学習をするという見通しを子どもたちに持たせると良い。
- ・導入時には何のためにこの学習をしているのか、単元構想図をもとに確認し、学習のゴールや付けたい力を子どもたちにも意識させる。
- ・二つの広告を「写真・キャッチコピー・説明の文章・説明の順序・色の効果」から表現の違いを見つけるために、項目ごとにおさえいくのが分かりやすかった。写真とキャッチコピーは前時までにおさえられているが、それでも45分では時間が足りないと感じた。→写真までは前時でおさえおき、残りは家庭学習で取り組ませ、ワークシートの表が書き込まれた状態で本時は行う。家庭学習を生かした本時にする。
- ・まとめをする時に、「気付いたことはありますか？」という先生の発問が難しかった。
- ・説明の文章の表現の違いを見つけることが難しかった。前時に二つの広告の目的を読み取っており、本時の導入でも確認しているので、目的を意識しながら二つの広告に書かれている言葉や文章を読み取らせていくと良かったのではないかと。目的は確認されたけど、その目的を意識して、広告から言葉や文章を見つけることができていない児童もいた。(例 家族ための広告には「高齢者」という言葉が、(子どもを心配する)大人のための広告には「お子さまもいやがらず」という言葉がある)
- ・本時の評価基準は「比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている【知識及び技能(2)イ】であるので、二つの文章を比較しながら表にまとめていくと良いのではないかと。例えば「家族のための広告なので～、大人のための広告なので～」と比較しながら話をさせる。→話型を提示する。
- ・表に書き込む言葉は文章ではなく、必要なキーワードにすると、視覚的にもすっきりと分かりやすい。

協議の後、出された意見を基に修正を行い、次の日に B 組の野並先生が模擬授業を行いました。模擬授業に参加された先生方の間で熱心な協議が行われ、さらに改善を加えることができました。参加して下さった先生方、ありがとうございました。4年 B 組の公開授業については次号でお伝えしたいと思います。



二つの広告の目的を意識しながら、表現の違いを見つけようとしていました。